国際交流活動運営費：『戦争とアート』@ベルリン芸術大学 報告書

期間：2022年10月30日（日）～11月8日（火）
引率者：笠原恵実子（彫刻学科教授）・久保田晃弘（メディア芸術コース教授）
派遣者：彫刻学科学生7名（清水 胡奈・叶 子菁・飯島 伶圭・加藤 大河・胡 可妮・王 靖琦・神薗 峻也）・メディア芸術コース学生5名（木村 紗妃・古山 寧々・徐 秋成・バク ソミン・岡本 果穂）

内容：本学協定校でもあるベルリン芸術大学のIna Weber教授とのコラボレーション。現代における最も危機的な状況の一つであるロシアによるウクライナ侵攻を受けて、同時代に生きる私達はこれからどのようなアートを生み出していくのかを考える。本プログラムは、政治や経済における解決策だけではなく、アートが何をするのかをもっと模索するべきではないか、という視点に立ち、日独の学生が共に過ごし、多層的社会のあり方や、そこで起きる問題について探究を行った。同時に、2年間に及ぶCOVID-19パンデミックによって断たれていた世界的なアートコミュニティを再生する意義も込められている。

スケジュール：
10月31日（月）：
（午前）ベルリン到着
（午後）顔合わせと自己紹介

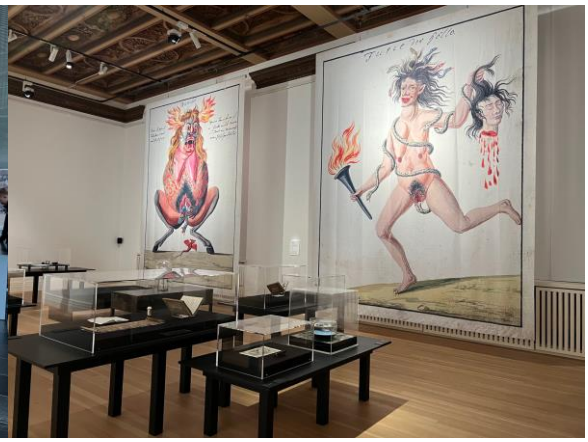
11月1日（火）：

（午前）ザクセンハウゼン強制収容所

（午後）グループテーマとグループ分け

11月2日（水）：

（午前）テロのトポグラフィー / マルティン・グロピウス・バウ



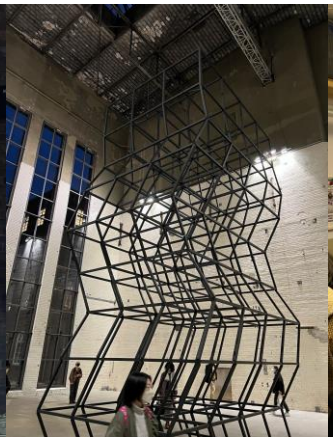
（午後）グループ毎のディスカッション

11月3日（木）：

（午前）ハンブルガー・バーンホフ現代美術館

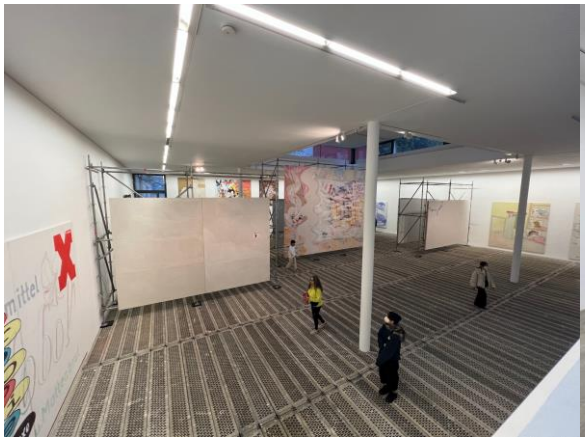
（午後）グループ毎のディスカッション

（夜）KINDL - Centre for Contemporary Art / 101 Projectspace and Studio



11月4日（金）：

（午前）KW Institute for Contemporary Art / n.b.k.



（午後）グループ毎のディスカッション

11月5日（土）：

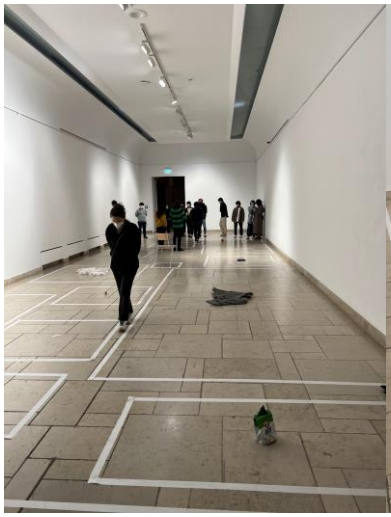
（午前）自由行動

（午後）グループ毎の制作

11月6日（日）：

（午前）発表会準備

（午後）発表会 / 送別会



11月7日（月）：

（午前）UdK ニューメディアクラス（メディアハウス）訪問

（午後）出発～帰国

報告会：

- 学生による報告会（2022年11月21日 5限 レクチャーCホール）

- 「教養総合講座B」での報告（2022年12月7日 5限 レクチャーAホール）

  授業に対する学生からのコメントカード

おわりに：

今回のプログラムに参加した多摩美術大学及びベルリン芸術大学の学生たちは、日本とドイツの異なる文化的背景を持ちながらも、共通の目的に向けて協力し、アートを通じたディスカッションや問題提起に、1週間という短い期間で集中的に取り組んだ。ウクライナ侵攻という現代における危機的な状況を背景に、政治や経済だけでなく、そこでアートが果たすべき役割について考える、ひとつのきっかけとなったことは確かだろう。

さらに、参加学生は多様な文化的背景を持つ人々と協力する必然性を肌で感じ、それぞれ異文化とのコミュニケーション能力を向上させることができた。今回渡欧した学生たちの中には、語学が特別に優れていない学生たちもいた。しかし、異文化や外国語に実際に触れながら、自分自身の視野を広げる中から、他者とコミュニケーションを取るということは、決して語学力だけではない、自身の人間力を用いる行為であることを、実体験として学んだように思う。学生たちが、自己成長につながるようなコミュニケーションを体験できたことは、本プログラムにおける、もうひとつの成果であるといえる。

COVID-19パンデミックによって国際的な交流が制限されていた時期を経て、こうした美術大学間の交流が再開されたことは、学生たちにとって大きな刺激になった。同時に、教員にとっても国際的なアートコミュニティを再生する意義を再確認することができた。プログラムの遂行に尽力していただいた大学関係者に、厚く感謝の意を表すると共に、今後もこうした海外交流プログラムが継続的に行われることが望まれる。